

## 水稻紋枯病に対する新規薬剤による散布適期幅の拡大

農業研究センター 農産園芸研究所 病虫部

担当者：森山 美穂

### 研究のねらい

水稻の主要病害である紋枯病は、分けつ期から成熟期まで長期にわたり発生するが、今までの防除薬剤は、その散布適期が出穂期前 15～20 日と狭く、他の病害虫との同時防除が困難であった。

そこで、紋枯病防除薬剤として新規登録されたフラメトピル粒剤（商品名：リンバー粒剤）について、その効果の確認を行うとともに、散布適期幅について検討し、水稻栽培での労力配分及び省力化への可能性について検討した。

### 研究の成果

- 1 新親の紋枯病防除薬剤であるフラメトピル粒剤の出穂 15 日前の 1 回処理は、慣行薬剤であるモンカット粒剤の出穂 15 日前 1 回散布処理と比較して、ほぼ同等の効果が認められる。
- 2 また、出穂 30 日前の 1 回処理あるいは出穂 45 日前の 1 回処理は、慣行処理時期（出穂 15 日前）にモンカット粒剤を処理した場合と比較すると、同等の効果がある。
- 3 以上の結果より、新規粒剤であるフラメトピル粒剤は、普通期水稻において、出穂 15 日前の 1 回散布でも効果は十分あり、既存の散布剤と同等の防除効果を持つことが判った。さらに、出穂 45 日前 1 回散布処理でも残効性があり、効果の持続性が長かった。

従って、このように広い散布適期幅を持つため、水稻病害虫の様々な発生条件に合わせた体系防除を組む場合でも的確な効果が期待できる。

### 普及上の留意点

使用にあたっては病害虫防除基準に従うこと。

表1 フラメトビル粒剤の散布適期幅の検討

供試薬剤名	散布時期	発病株率 (%)	病斑高率 (%)	被害度	防除価
フラメトビル粒剤	出穂 45 日前	7.7	43.9	2.9	88.9
	出穂 30 日前	6.7	42.5	2.4	90.8
	出穂 15 日前	5.0	39.8	1.4	94.7
モンカット粒剤	出穂 15 日前	3.3	44.1	1.3	95.0
無散布		42.0	58.5	26.2	-

注) 数値は 3 反復の平均値